

令和7年度 学校関係者評価 報告書

学校法人 岡崎学園
東朋高等専修学校

1. 目 的

関係業界、卒業生、地域住民等の学校関係者から委員を選任し、令和6年度の学校業務について、学校が自ら行った自己点検・自己評価結果の報告及び改善方策についての評価を受けることを目的とする。

2. 評価項目

評価項目は次による。

- ・ 自己評価の結果の内容が適切かどうか
- ・ 自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか
- ・ 学校の重点目標や自己評価の評価項目等が適切かどうか
- ・ 学校運営の改善に向けた実際の取組が適切かどうか

3. 評価要領

令和7年6月16日(月)に実施した学校関係者評価委員会において、自己点検・自己評価報告書の内容を報告し、それぞれの項目における意見聴取及び評価を受けた。評価委員からいただいた主な意見等について、それぞれの項目に記載する。

4. 出席状況

出席 計14名

【学校関係者委員】計7名

- ・ 矢内 昭秀 氏(大阪ダイハツ販売株式会社)
- ・ 車谷 知紀 氏(竹菱自動車販売株式会社)
- ・ 奥田 恵造 氏(関西大学 職員)
- ・ 三浦 哉子 氏(学びリンク株式会社)
- ・ 大矢 敬道 氏(黒田寺 住職)
- ・ 佐々木 大介 氏(正定寺 住職)
- ・ 東本 秀雄 氏(町会長)

【説明者】計7名 ※令和6年度の役職に基づき説明者を決定

- ・ 岡崎 泰道(学岡崎学園 理事長 兼 東朋学園高等学校 校長)
- ・ 太田 功二(東朋学園高等学校 副校長・東朋高等専修学校 校長)
- ・ 中田 博隆(大阪自動車整備専門学校 校長)
- ・ 船井 英伸(東朋学園高等学校 教頭)
- ・ 山田 晃子(東朋高等専修学校 総合教育学科 教頭)
- ・ 脇西 歩(東朋高等専修学校 普通科 教頭)
- ・ 勝間 祥子(学岡崎学園 法人本部 事務局)

5. 自己点検・自己評価概要および評価委員の意見

(1) 理念とミッション

- ・『東朋』といえば『支援』という教育内容が定着しつつあると感じている。
- ・ある一定、生徒数も安定しているように思われるが今後も、多様な課題を持つ子供が安心して進学できる学校として、運営を行ってってもらいたい。

(2) アドミッションポリシー(入学者受け入れの方針)

- ・自己点検、自己評価報告書にあるアドミッションポリシーに関しては、募集パンフレットにも記載があり、入学希望者へも分かりやすく提示されてると思われる。
- ・入学希望者への提示はもちろん、教員も入れ替わりもあるため周知はどうしているのか。
→新任の方は入職前の研修にて伝える機会があることを説明。

(3) 入学者選抜の方法

- ・保護者同伴の面接は理由もあるため、今後も行うべきであると思われるが、面接での質問事項や発言は細心の注意を払って行ってもらいたい。

(4) 生徒募集の方法

- ・入学希望者がある程度、安定しているのは承知しているが、子どもの数自体が減少していることや、こういった教育内容を必要としている子どもや保護者に漏れなく案内ができているかを今一度考えてみるのも良いのでは。
あとは費用との兼ね合いになってくると思われる。

(5) カリキュラムポリシー

- ・高等専修学校ならではの利点を生かして考えられたカリキュラムであると思われる。特徴的な授業はどういったねらいがあるかを受け持つ先生方にも改めて共有し、教員同士で意見を出し合ってより良いものにしていただきたい。

(6) カリキュラムの内容

- ・学年が進むにつれて希望する進路によって授業を選択できることは自分の進路を考える良いきっかけにもなる。
- ・技能連携制度により、学校に通えなくなった場合にも高校の卒業資格を取得できる仕組みについては大いに利用し、高校の卒業資格取得について諦めずに頑張ってもらいたい。

- ・授業がやりたい事だけにならず、必要な事としての視点も盛り込まれていて、そこに良さがあると思われる。

(7) 成績評価・単位認定

- ・成績評価の基準はそれぞれの学科違うと思われるが、その基準を教員が十分理解したうえで判断すべきである。

(8) 学生の支援

- ・経済的支援に関しては、経営とのバランスで簡単ではないと推察されるが、分納対応などは生徒数や対象者が多いほど大変になってくると思われる。学費管理に関しては事務が煩雑にならないよう完結させる工夫が必要である。
- ・一人でも多くの生徒が自立した生活を送っていけるよう、総合的な支援ができる学校を目指してほしい。

(9) 教員の確保

- ・教員数が多いので、指導を行う上での生徒に関する情報共有が重要になってくるがどのように行っているのか。

→職員会議や学年会議で指導上の留意点などを共有している。

非常勤講師は、職員会議への出席はないものの、会議資料の閲覧は可能であり、担任との連絡も行っている。

(10) 学習環境

- ・建物の経年劣化も鑑み設備等の点検には改めて注意を払う必要があるため、引き続きの管理徹底に努めてもらいたい。
- ・近年課題となっているが夏季における気温対策はしっかりと行うべきである。以前の対策では追いつかないほどの変化がみられるので、現在の対策が十分であるか、今一度確認して教育活動を行ってもらいたい。

(11) 財務

- ・令和6年度から2年間ほどは大阪自動車整備専門学校の校舎建替えという大きな出来事があるため、学校ごとの管理に加えて法人全体でも管理を徹底していく必要がある。前年の学校関係者評価の委員会でも発表があったが令和7年度から8年度にかけて各学校がそれぞれの飛躍に向け、大きく変化を迎えることに期待している。

(12) 法令等の遵守

- ・法令等の遵守は専修学校として運営するうえで避けられないものであるので、引き続き適正な運営ができるよう、努めていただきたい。

(13) 自己点検・自己評価、学校関係者評価、外部評価

- ・自己点検・自己評価において、アンケートの結果から概ね適切に実施されている。令和8年度からの学科設置に向けて、来年と再来年は変化の大きい年になるため注意深く運営してもらいたい。
- ・運営においては、一人ひとりの教職員の尽力あつてのことである。運営の方針を共有しながら一丸となって頑張ってもらいたい。